

拠点名称：リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点

代表機関	慶應義塾大学	プロジェクトリーダー	田中 浩也 慶應義塾大学 KGRI 環デザイン&デジタル マニファクチャリング創造センター セン ター長／環境情報学部 教授
幹事自治体	鎌倉市	幹事機関	株式会社カヤック
参画機関	叡啓大学、関西学院大学、高知大学、国際大学、信州大学、法政大学、北海道大学、ものづくり大学、横浜国立大学 江ノ島電鉄株式会社、株式会社オカムラ、株式会社ORPHE、花王株式会社、特別認可法人鎌倉商工会議所、NPO法人カマコン、キョー ラク株式会社、一般社団法人国際STEM学習協会、JSR株式会社、湘南モノレール株式会社、SOLIZE株式会社、大成建設株式会社、大成 ロテック株式会社、株式会社高山商会、デジタルファッション株式会社、東京エコリサイクル株式会社、TOPPAN株式会社、株式会社放 電精密加工研究所、三菱ケミカル株式会社、三菱電機株式会社、ミュージックセキュリティーズ株式会社、ヤマハ発動機株式会社、株式 会社横浜銀行、レコテック株式会社、YKK AP株式会社		

プロジェクトの概要

SDGs未来都市である鎌倉市は「ゼロウェイストかまくら」を目指し、人口20万人規模の「中都市」に適した、ごみ減量や資源化の試みを推進してきた。本プロジェクトでは、資源化のさらに先に、地域で回収した各種資源に高価値を付与し、新たな活用先を連続的に創出する「共生アップサイクル」を推進する。さらに、参加する市民が相互にリスペクトで繋がりあうことで、「消費者」ではなく「循環者」としての新たな充実感やウェルビーイングを獲得できる社会経済モデルを確立する。鎌倉市で開発・運用・洗練した科学技術基盤と評価指標、社会制度を、最終的には日本国内・世界各地へ展開し、国際的な資源循環都市ネットワークを先導する。



拠点名称：リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点

代表機関：慶應義塾大学

プロジェクトリーダー：田中浩也(環境情報学部教授、KGRI環デザイン&デジタルマニ
ファクチャリング創造センター長))

研究開発課題1「超多数・超稠密な連続情報基盤」の目標		年度
中間目標1（2年目）	AIカメラによるモニタリング技術の基礎的完成	2024
中間目標2（4年目）	非電源センサによるセンシング技術の基礎的完成	2026
PoC目標3（6年目）	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）	2028
最終目標4（8年目）	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）	2030
研究開発課題2「ファインケミストリーを核とした階層的アップサイクルの実現」の目標		
中間目標5（2年目）	コーヒーかすからのアップサイクル技術の基礎的完成	2024
中間目標6（4年目）	甲殻類殻からのアップサイクル技術の基礎的完成	2026
PoC目標7（6年目）	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）	2028
最終目標8（8年目）	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）	2030
研究開発課題3「プラスチック分解機能を有する微生物の探索と利用」の目標		
中間目標9（2年目）	難分解プラスチックを分解する微生物とメカニズムの基礎的解明	2024
中間目標10（4年目）	微生物分解を生かした生ごみ消滅やプラスチック高速分解の手法の基礎を確立	2026
PoC目標11（6年目）	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）	2028
最終目標12（8年目）	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）	2030
研究開発課題4「アップサイクル製品の文化的・感性的な設計・評価手法の開発」の目標		
中間目標13（2年目）	アップサイクルプロダクトに対する感性評価手法を基礎的に確立	2024
中間目標14（4年目）	社会包摂性を有する公共物について「価値構造」の感性評価手法を基礎的に確立	2026
PoC目標15（6年目）	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）	2028
最終目標16（8年目）	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）	2030
研究開発課題5「「リスペクト経済」の価値指標開発」の目標		
中間目標17（2年目）	資源循環とウェルビーイング向上の相関分析が基礎的に完成	2024
中間目標18（4年目）	自治体の持つ「循環成熟度」を環境面・人間面双方から総合的に算出するための理論が基礎的に完成	2026
PoC目標19（6年目）	鎌倉での実証を複数回繰り返したうえで、その有用性を確立（PoC）	2028
最終目標20（8年目）	技術をパッケージ化したうえで、他自治体・国外への展開（事業化判断）	2030

拠点名称：リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点

代表機関：慶應義塾大学

プロジェクトリーダー：田中浩也(環境情報学部教授、KGRI環デザイン&デジタルマニュファクチャリング創造センター長))

